

# 第1回 赤川水系河川整備学識者懇談会

## 議事概要

開催日時：平成22年3月18日 13:00～15:00

開催場所：出羽庄内国際村 国際村ホール

### ■議事次第

- 1.委員会設立と規約等について（非公開）
  - (1) 委員紹介
  - (2) 規約（案）について
  - (3) 座長の選出について
  - (4) 公開方法について
  
- 2.「第1回赤川水系河川整備学識者懇談会」（公開）
  - 1.開会
  - 2.あいさつ
  - 3.設立趣旨について
  - 4.議事
    - (1) 赤川水系河川整備計画策定の流れ
    - (2) 赤川水系河川整備基本方針の内容説明
    - (3) 国・県の事業紹介
    - (4) その他
  - 5.閉会

## ■ 質疑応答 ■

- 県管理区間の確率は、どの程度なのか。
- ◆ 大山川については将来的には 1/50 ですが、現在は河道掘削をしていないので 1/3 程度、湯尻川についても将来的には 1/50 です。現在は暫定掘削をしておりますが、こちらも 1/3 程度となっています。矢引川については 1/30 ですが、現在は暫定掘削をしております、こちらは 1/2 程度となっています。
- 流量配分図の 560m<sup>3</sup>/s という数字は、どういう数字になるのか。
- ◆ 560 m<sup>3</sup>/s は、赤川の計画 1/100 確率の降雨があった場合の、大山川直轄区間の対象流量。赤川で 3,200m<sup>3</sup>/s が流れてくる時間帯の大山川の流量は 100m<sup>3</sup>/s となるので、流量配分図には括弧書きで 100m<sup>3</sup>/s と記載するのが正しい。
- 上流部、中流部、下流部の区分は、これから整備計画を立てるに当たっての基本的な区分なのか。
- ◆ 基本方針策定時にこの区分とした。整備計画もこの区分で考えたい。
- 中流部は河床勾配の幅が大きく、洪水外力や環境面など川の特性に差が大きいと感じる。これを一括りにし、議論して良いのか。

## ■ 意見交換 ■

### 【情報公開、意見聴取に関する意見】

- 公開の方法について、その都度閲覧、最後に意見募集ではなく、随時意見をもらえるよう手段を講じておいた方が良い。
- 普通はどうやって公開しているのか。
- ◆ 資料と議事をまとめたものをホームページに掲載している。また出張所なり事務所において、自由に閲覧出来るようにしている。意見を募集するという表示はしていないが、窓口などで意見を受け付けている。
- 最終的に意見を求めるのではなく、ホームページに一言何かご意見があれば言ってもらえるように、自由に書き込みができるようにしておいた方が良いのではないかと。
- 完璧な双方向ではないが、現在も道は開かれているようなので、窓口や各事務所に意見があれば、この懇談会に紹介してもらおうということでしょうか。
- ◆ ホームページにはメールの宛て先が掲載されており、また意見募集のページがある。詳細はシステムの管理状態を確認しないと何とも言えないが、可能な範囲で対応していきたい。
- 住民意見を吸い上げる場について説明会を行ってほしい。場所としては地元集落での開催を望む。

### 【河川環境、自然環境に関する意見】

- 野鳥と川の関係は非常に大きい。
- 庄内地方は鳥にとって自然豊かで多様性に恵まれている場所。今後の赤川の整備によって、ますます恵まれた良い川になるのではないかと期待している。

- ハリエンジュの伐採は、コロニーのないことを確認して実施しているが、コロニー減少に影響はあるのか。
- あると思われます。基本的に、河川敷を放っておけば鳥にとってはすごく良い環境になる。しかし、なり過ぎるのも長い目で見れば管理上問題だと思う。河川敷を放置して営巣地を作ってしまうのは、やはり問題で、その辺のバランスを取りながら堤防とか、堤防の脇など河川敷でない場所に代わりになる林を作ってもらいたいという希望はある。
- 北の川はサケ科魚類が豊富だが、最近資源量が減ってきていて心配。
- 自然再生検討会ではサクラマスが問題視されており、どう増やしていくかがシンボリックな話題となっている。整備計画の資料に、サクラマスが出ておらず、疑問に感じた。
- 平成20年に多自然川づくりの中小河川に関する技術基準が出ている。実践するのは難しい部分もあるが、県管理区間については持続可能な川を作っていくために、こういった点も踏まえて反映させていただければと思う。
- 河川敷というのは、常に攪乱が起こり、肥沃な裸地が形成される。そこにはいろいろな植物が生える可能性があり、貴重な植物の進出場所になっている。治水上の問題は無視できないが、法面に外来種の牧草を吹き付けることは出来るだけ避けてほしい。
- 赤川の特殊性として、海浜植物の群落の裸地への進出があげられる。また、この地域は多くの南方系の植物の北限地帯になっており、温暖化の影響で新しい種が進入してくる際、河川敷の裸地は最初に入ってくる場所となる可能性もある。そういう視点からこの事業の行く末を見ていきたい。
- 水質の話でBODが出てきたが、赤川はもともときれいな川で、BODのみで判断すると何もやることがなくなる。その川の特性に応じた水質検査の方法が必要。整備計画の中でできる話ではないと思うが、こういう意見を次の検討の中に入れていただきたい。
- 昭和62年の洪水時には、庄内総合支庁付近の水位（横山観測所では計画高水位を0.45m超えた）があのようなところまで上がったということから河道掘削によって住民の安心感は非常に高まってきていると思っている。
- 河川の中にハリエンジュの林があるのは河川の流量の阻害をするということで、伐採については住民からも好意的に受け止めていただいている。
- 昨今のゲリラ豪雨とか集中豪雨によって果たして今の状況で突発的な豪雨に対して、河川断面で被害なく、うまく洪水調節がなされていくのか検討いただければと思っている。

### 【土砂の管理に関する意見】

- 整備計画では、将来的に河床の維持をどう図っていくかが大きな問題になると思う。長期的な視点でそろそろ考えないといけない時期に来ており、将来的には河床がきちり安定し問題が起こらないよう、どう管理していくのが課題となる。
- 魚道等が整備され、遡上範囲は広がっているが、川全体を見た場合、赤川は上流域に月山、八久和、荒沢というダムがあり、土砂や礫の流下が相当抑えられている河川になっている。中流部あたりの礫径の問題がやはり重要だと思う。河床勾配や礫も含めてデータを集め、環境や生態系との絡みを考えていく必要があるのではないかな。
- 上流域では洗掘が卓越していると感じる。砂防ダムの効果が非常にうまく出たとも言えるが、河床礫の減少はサクラマスなどの産卵環境に悪い影響があると思う。

- 上流域は国の直轄区間ではないが、何かデータとして欲しい。国のシステムの中で、上流域のデータまで集められれば非常にありがたい。
- 土砂の管理は恒久的な課題。ハード的な対策をやれば終わりというのではなく、ソフト的な対策や住民的活動が必要であり、地元の協力を求めたり、国交省の力を借りたりしなければいけない。
- 河川からあふれた土砂で形成された砂により一部で浸食が心配されたり、一方で砂が多過ぎるという話があります。河川の外の話になりますが、海岸の浸食や土砂堆積にも配慮していただきたい。

【洪水避難に関する意見】

- 庄内地方では洪水ハザードマップは鶴岡市、三川町、酒田市でそれぞれ作られているが、合併後見直されていない。整備計画とは流れが違うところもあるが、この機によろしくお願ひしたい。

以 上